

再出発にあたっての過去のまとめ(NPO 解散の経緯含む)

行本 明説

2017年3月1日

このレポートは、私が再出発するに当たり避けては通れないと判断し、公開することとしました。今まではオブラートに包んでいたことも公開させていただきます。そうしないと本当のことがわからない。私のことを理解していただけないと思ったからです。

このレポートを読んで腰が引けた方は、今後私との接点は持たないほうが良いと思います。最後までお読みいただいた方は、私との接点を続けるかどうか真剣に悩んで結論をお出しください。それでは、以下の内容でレポートします。

- ・今後の取り組みについて
- ・過去のまとめを一言で表現すると
- ・私の長所と短所
- ・NPO 解散の経緯

では順をおってレポートします。

<今後の取組みについて>

基本は著述業で行こうと考えています。書籍を出したり、研修のコンテンツを開発したり、コンサルティングの手法を編み出したりの活動です。

タイムマネジメント、セルフマネジメントのコンサルタントではなく、著述業と考えているのは、タイム・セルフマネジメントの分野が広く、たとえばコミュニケーションやストレスだったりさらには個人と企業、企業と社会などの関係性だったりとても広い知見が必要です。しかし、私が満足できるコミュニケーションやストレスの理論、個人と企業をつなぐ考え方、企業と社会をつなぐ考え方はドラッカー先生が研究してくださいましたが、他は個人的には不満足です。今までは誰かがやってくれると思っていましたが、なかなか出会えませんでした。そこで不遜ではありますが、残りの人生で自分が納得できるものを形にしようと、そして一番わかりやすいのが著作物と考え、著述業と結論付けたわけです。

具体的には30年近くやってきたタイムマネジメントの私のノウハウを引き継いでくれる人を養成する「一般社団法人」を設立することと、東京と札幌の二つの拠点で、これは生活するための原資を生み出すためですが、株式会社でノウハウの開発とコンサルティングをそれぞれで実施しようと思います。札幌は高校までいたので高校の同窓でコンサルティング活動ができることを想定しています。東京は独立直後のころタイムマネジメントでは食べられなかったのが不動産コンサルをしながらしのいでいました。不動産や建設コンサルをやりながらはたらき方改革のコンサルをしようと考えています。札幌はとりあえず実家で、東京は野方に拠点を用意しました。

<過去のまとめを一言で表現すると>

金欠病との壮絶？な戦いだったように思います。今でもですが。

一番はじめは学生時代であろうことか仲間と吉祥寺で学習塾を経営していました。最初は儲かりませんでしたが、講師 50 名を超える大きな塾に 2 年ほどでたどり着きました。しかし、仲間の一人の横領などが発覚し、大きな塾にするためほとんど無給に近い状態でやっていたので、貧乏暮らしの甲斐もなく一銭も残らない状態となりました。ちなみに塾で稼いだ年間の利益をいまだに越すことができません。

青春の挫折を感じながら、しっかりと社会人を勉強しようと就職しましたが、10 年間のサラリーマン生活では常に残業王（ほとんど毎日タクシーで帰っていました。経費清算を教えてもらえなかったのが最初の 3 年間は自腹でタクシーに乗っていました。）で、いつもお金がなくびいびいしていたのを思い出します。

10 年後に独立し、英国のタイムマネジメントを日本に紹介することになりましたが、当時弟がある銀行のニューヨーク支店にいたので相談すると英国の会社を調べてくれて「バンクラプト（清算状態）だからやめたほうがいい」とアドバイスをくれましたが、それに従うことなく英国にわたり業務提携をしてしまいました。案の定、私の先生は 1993 年に私の紹介したシャープさんから着手金 500 万円を受け取った後、行方不明となってしまいました。私は 4 年間ほど日本国内で普及に努めていましたので、お客様対応で悲惨なこととなってしまいました。

また、英国と業務提携するに当たり保証金やら契約金やらが必要で、独立 1 年目の勤続年数不足の私に融資する銀行もないとあきらめていたら、当時のさくら銀行の吉祥寺支店で融資しても良いといわれ、当時住んでいた横浜のマンションを担保に提供しようとしたのですが、新しい商品なので住まいではなく事業用の不動産はありませんか？とのことで父が所有していた千葉の賃貸にしている家はあるよと伝えたら、お父様と相談してお父様の了解が取り付けられたら融資しましょうとのことでした。しかし、それは難しいなあと伝えると、ではこちらでお父様を説得しますとの返事で、実際に父を説得し融資が実行されることになりました。おかげで英国のノウハウを勉強しタイムマネジメントコンサルタントの私の誕生となるわけですが、このことが壮絶なお金との戦いのスタートとなるとは、そのときはまったく考えることもできませんでした。

イギリスの会社が倒産したあと、何度か先生を探す試みをしましたが、いまだに所在不明のままです。たまにはロンドンと東京の中間のイスタンブールで打ち合わせしようが私が先生から聞いた最後の言葉です。

決まりかけていた大きな仕事はいくつかあったのですが、先に進めない状態となり、いよいよ金銭的に困ることになりました。英国に送った保証金も戻るあてもなくなりました。月末の銀行への返済のために仕事をしているような状態でした。不動産コンサルの仕事がなかったら比較的早期に結論がでていたと思いますが、なまじっかしのげたのが傷口を広げる

結果となってしまいました。

銀行とは交渉を続けながら細々と仕事を進めていました。1998年に「仕事を科学する」を出版してからちょっと余裕ができるようになってきました。この著作を読んでもらった北関東の金融機関の理事長さんが合併の際のコンセプトとして採用してくださりました。

このコンサルで生み出した資金でNPO法人を立ち上げることになりました。

NPOの活動は順調に推移しました。特にNPOのせいか自治体と労働組合からの引き合いが多く、切羽詰った状態は少しばかり楽になりましたが、銀行との返済のバトルはずうっと継続していました。

そんなおり、バイエル薬品から長時間労働対策の全社プロジェクトがあるので、コンペで指導先を決めるから、ぜひとも参加して欲しいとの依頼がきました。コンペの参加は費用がかかることは不動産コンサルで知っていましたが、NPOの活動も順調で多少のゆとりもあったので、人事が主催する業者選択のためのコンペに参加しました。

結果、コンペに勝つことができ、先方の人事担当の方と何度も実施のための打ち合わせをしました。全社規模だったので、その年は私を含め複数の講師が他の仕事を入れることもできない状態となっただけでなく、それまで人力でやっていた業務診断をシステム化する必要があり先行投資せざるを得ない状況に打ち合わせでなってしまうました。

システムの開発費と職員の増員、そして講師の日程の先抑えまで行いましたが、想定受注金額で銀行との交渉が終了できそうだったので全力で望んでいました。

しかし、業者選定が終わり見積もり金額も合意したあと、人事からプロジェクトチームに担当が変わってから事件が生じてしまいました。今思えば先方ととにかく書面を交わしておけば良かったと後悔しています。コンペであったこと大手であったことでまさかの事態を想定することを止めてしまっていた私がありました。

一向に先方から連絡が来ません。だれがプロジェクトチームの責任者かもわからない状態で、何度となく人事の担当者や交渉に同席なさっていた部長さんにも連絡しましたがちょっと待っての一点張りで埒がきませんでした。

結局、いまだに連絡は来ていません。驚くべきことです。あれからもうじき10年近くになります。ひどい会社です。おかげで順調に運営してきたNPOがあきらかに負のスパイラルにはまってしまいました。見積もり金額の半分くらいの実損が生じたと思います。そのほとんどはNPOが私に対する債務となってしまいました。

これで銀行交渉の勝ち目はなくなったと感じたときに、合併して三井住友銀行となっていた同行の保証会社から被告人として訴えられる裁判となってしまいました。

裁判になってわかった重要なことがあります。それはさくら銀行吉祥寺支店で不適格融資だったということです。私は株式投資を一切行いません。これはゆるぎない、数少ない私の信念です。しかし裁判の資料に私の融資申込書が添付されていました。欄外の社内でのコメントを記入する欄に「資金用途は株式投資、申込人は本支店の重要なおお客様の友人。」と記載されていました。私は英国との契約金として新規事業資金として申し込みをしました。

これは融資を実行させるために内部で情報を捏造したあかしです。また、私が受けた融資も裁判ではっきりわかりましたが、株式投資用のバブル期に開発された融資でした。これはあきらかに不適格融資です。裁判では、この一点で戦いましたが、地裁ではろくに審議もせず敗訴、信念のもと高裁に持ちこみました。高裁では判事が理解を示してくれましたが、原告である三井住友銀行の保証会社が和解に応じずまた敗訴、最高裁までと思いましたが、訴状に張る印紙代が工面できず断腸の思いで断念しました。そのあと千葉の不動産は競売になりましたが、その際に父が「これで借金がなくなった」と話したので、そんなことはないよ競売金額では追いつかないからと伝えると「そんなことはない。さくら銀行の担当者がもし返済できなければ担保物件で返していただきます。担保物件をいただいたらそこで借金はなくなるというから、判子を押した」と言い出したので怒りがこみ上げてきました。父は長年教師を朴訥とやってきた人間だったので、父の言ったことは本当だったと思います。何かあるごとに死ぬまでそれを言っていたので、今でも慙愧の思いでいっぱいです。

裁判のあと、父の連帯保証と家内の連帯保証をなけなしのお金を保証会社に渡し、私の単独債務とするのが精一杯でした。

裁判がおわり、千葉の土地も横浜のマンションも競売で失ってからしばらくして、保証会社から債権を第三者に売却した旨の連絡が来ました。いわゆるバルクにされてしまいました。債権を買い取った会社から返済の追及が来るようになったころと時を同じくして、メールやはがきダイレクトメールで融資の案内が頻繁に届くようになりました。今と違って、知恵がまわらなかった私は渡りに船とばかりに、その融資を使うことになっていました。債務のとりたてもありましたが、金融機関と裁判をやっていたのでまともな金融機関からは借り入れもできない状態でした。職員の給料も払えなくなる状態をしのぐために使ってしまったわけです。今考えるとあまりにも時期が一致するので怪しい金融会社と三井住友銀行の保証会社やその債権を買ったサービサーとは裏でつながっているような気がしてなりません。このような怪しいお金を借りるとあり地獄です。最終的には闇金との壮絶なバトルをすることになりました。高校の友人の弁護士の力を借りて、1年がかりで対処しましたが、その中で失ったものは沢山あります。私が高校2年までは私のことを大層リスペクトしてくれていたはずの弟から逆勘当、絶縁されてしまいました。弟としては英国との取引をやめさせるべく調査したにも関わらず、私の金銭問題の出発点はそこにあるわけで、怒り心頭になったと思います。

また、東洋経済新報社とも縁を切られてしまいました。闇金との縁切り作業中（連絡せず、連絡受けず、あきらめるまで待つが唯一の方法です）、業者のなかで東洋経済に電話をしたものがいて、当時島田神介がやくざとの関係で引退する事件があったせいもあり、縁きり作業中なので協力して欲しいという要望も受け入れてはもらえませんでした。

また警察もひどい話で京都府警の指示で私の個人名義の銀行口座は全て使えなくなっていました。数年前まで個人口座の開設をしても申し込みがキャンセルされてしまいました。闇金が融資をする際に借主の返済金を借主から直接私の口座に振り込ませたことによ

り京都府警は私を闇金と認定したからでした。京都府警だけはいくら説明しても闇金ではなく利用者だということを理解してくれませんでした。電気、ガスの引き落とし専門の口座も全て残高があるまま凍結されました。これもひどい話です。

そんなこんなで通常では経験できないような知識が身につけてしまいました。全うに暮らしていれば要らぬ知識ではありますが、人生、社会の裏側を随分と知ることになりました。今振り返っても、あの状況で良く仕事を続けることが精神的にも経済的にもできたなあと思います。今回 NPO を清算するにあたり NPO の債権者はほとんど私一人状態です。バイエル薬品との躓きで生じた債務は千万単位で片手にはなりません。多くの友人の力がなかったら金銭の問題も精神の問題もうまくいかなかったと思います。

このような状態で私の再出発はゼロからのスタートではなくマイナスからのスタートです。昨年手術による三ヶ月近くの入院を考えると、かなりのマイナスからのスタートだと覚悟しています。

<私の長所と短所>

長所については自分では良くわかりません。短所は良くわかっているつもりではいますが。長所かどうかわかりませんが、よく人から言われるのは、「なんか違うよね、まわりと」「なんか怖い」「めだちますよね」「トリッキー」「その発想はどこからやってくるんですか」「頑固」「しつこい」などです。

自分が感じている短所は、「腰が重い」「先送り」「優柔不断」かつて坂口良子の担任だったおばが中学の私につけたあだ名は「ご隠居、若隠居」でした。まだあります。「無謀な冒険野郎」当たり前をなかなか満足することができません。

セミナー講師にはいろんなパターンの人がいます。毎回エンドレステープのように参加者が変わろうとも寸分たがわない講演をする人。私にはそのやりかたはまったくできません。自分で感じるのは、隠居で動きが悪いくせにチャレンジばかりしている夢追い人のような気がしています。当然、認識しているので何とか変えなくてはと還暦過ぎても感じてはいます。

<NPO 解散の経緯>

入院する直前の9月まで、札幌でしばらくゆっくりしたら東京でNPOを継続させると考えていました。しかし、急遽入院することとなり、それも2週間の予定で入院したのが一時は退院のめども立たない状況となって熟考する機会をいただきました。

東京での運営は財政的にほぼ不可能であること。

財政的に何とかなくても業務処理をする人手がないこと。

実際の活動拠点は、札幌、東京、名古屋、大阪とあるにもかかわらず東京都認定のNPOなので拠点は東京しか表示できないこと。

これらの状況となれば、誰が考えても「解散」という結論にいたるだろうと思います。長期

入院のおかげで私もやっとその境地にたどり着くことができました。

ですから、新しい組織は三つも予定されていますが、上記の課題をクリアにしなければ先に進めないと覚悟しています。

みなさまの物心両面の支援がなければ実現しないと理解しております。

ご支援、ご協力、ご指導のほどよろしく申し上げます。

過去の著作物

- ・セルマネジメントスキルブック
- ・ザウルスで仕事革命
- ・続・ザウルスで仕事革命
- ・仕事を科学する
- ・できる人のタイムマネジメント
- ・最強の時間力（韓国版と台湾版あり）
- ・最強の会議力（韓国版あり）
- ・仕事の困ったを解決する本
- ・超タイムマネジメント
- ・時間を二倍にする手帳の技術
- ・見える化で社員の力を引き出すタイムマネジメント
- ・金融機関管理職の仕事力養成口座
- ・良い経営者できる管理職育つ社員
- ・仕事のできる人のデスクトップは美しい
- ・ワークコントロール

過去の指導先（抄録）

- ・東京ブラウス・サントリー・三貴・アドバネクス・安田火災・第一生命・日産自動車・日産車体・日立総合経営・JTB・カネボウ・伊勢丹・東北日本電気・水戸信用金庫・JQA・j.union
- ・札幌市立病院・東京労災病院・東京大学医学部看護学教室・シャープ・大阪電通・ダイカ
- ン・起亜自動車・キャノン労働組合・テルモ労働組合・三重県庁・神奈川県庁・埼玉県庁・広島県庁・新宿区役所・三次市役所・秋田県庁・熊本県庁・千葉県庁などなど